

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

本日（28日）06時11分頃、傾斜変動を伴う火山性微動が発生し、一時的に火山性地震が増加しました。今後の火山活動の推移に留意してください。

大穴火口や燕沢火口列周辺では、火山ガスの噴出が認められており熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1～3）

吾妻山では、本日（28日）06時11分頃に火山性微動が発生しました。吾妻小富士東観測点（大穴火口の東約3km）で観測された火山性微動の継続時間は3分5秒、最大振幅（上下成分）は $4.1\mu\text{m/s}$ でした。これまで観測した火山性微動に比べると、継続時間は短く、最大振幅は大きなものではありませんでした。火山性微動が観測されたのは、2019年5月14日以来です。

火山性微動の発生に伴い、火山性地震が一時的に増加し、07時までに20回（速報値）発生しましたが、その後は観測されていません（12時現在）。震源は大穴火口付近の浅部と推定されます。

・地殻変動の状況（図3）

浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、火山性微動の発生に伴い西北西（大穴火口方向）上がりの変動がみられましたが、現在はほぼ停滞しています。

・噴気など表面現象の状況

監視カメラによる観測では、大穴火口とその付近の噴気の状況に変化は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）で閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

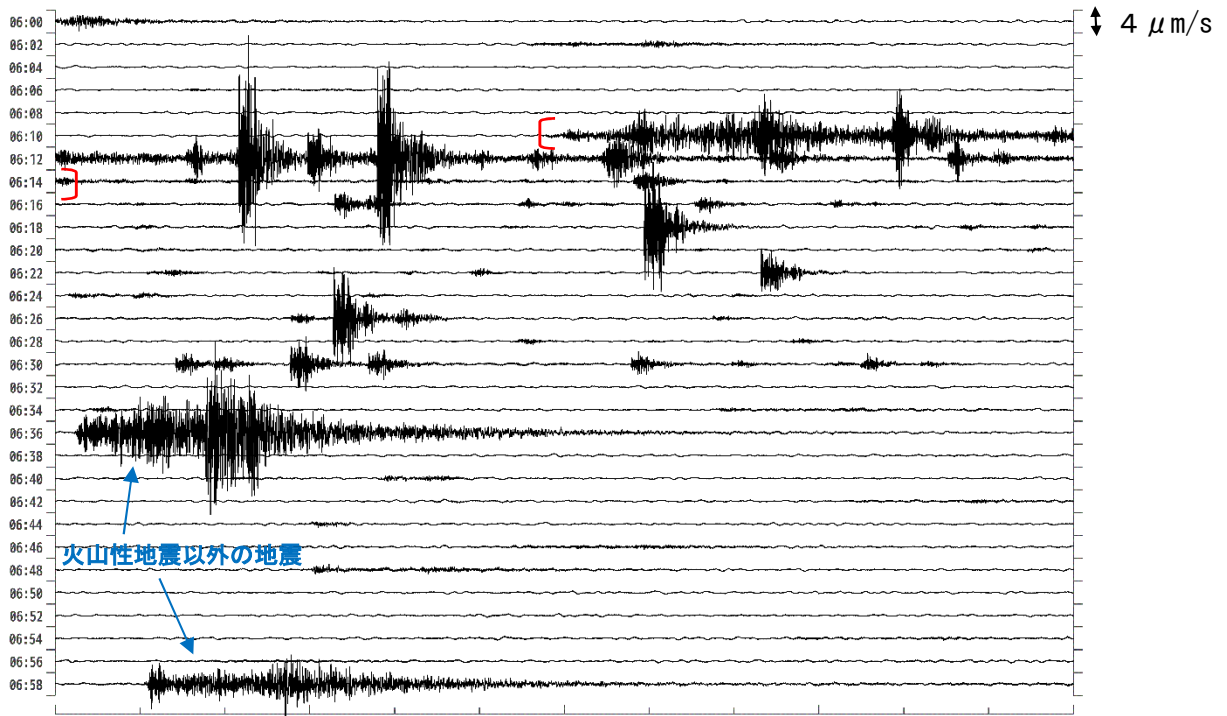


図1 吾妻山 吾妻小富士東観測点（上下成分）での火山性微動及び火山性地震の発生状況（2022年3月28日06時00分～07時00分）

・ [] は火山性微動の発生時を示します。

火山性微動の最大振幅は $4.1 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は3分5秒です。



図2 吾妻山 火山性微動の発生状況及び日別地震回数(2021年11月～2022年3月28日12時)

3月28日06時11分頃に火山性微動が発生しました。

火山性地震は、07時までに20回（速報値）発生しましたが、その後は観測されていません（12時現在）。

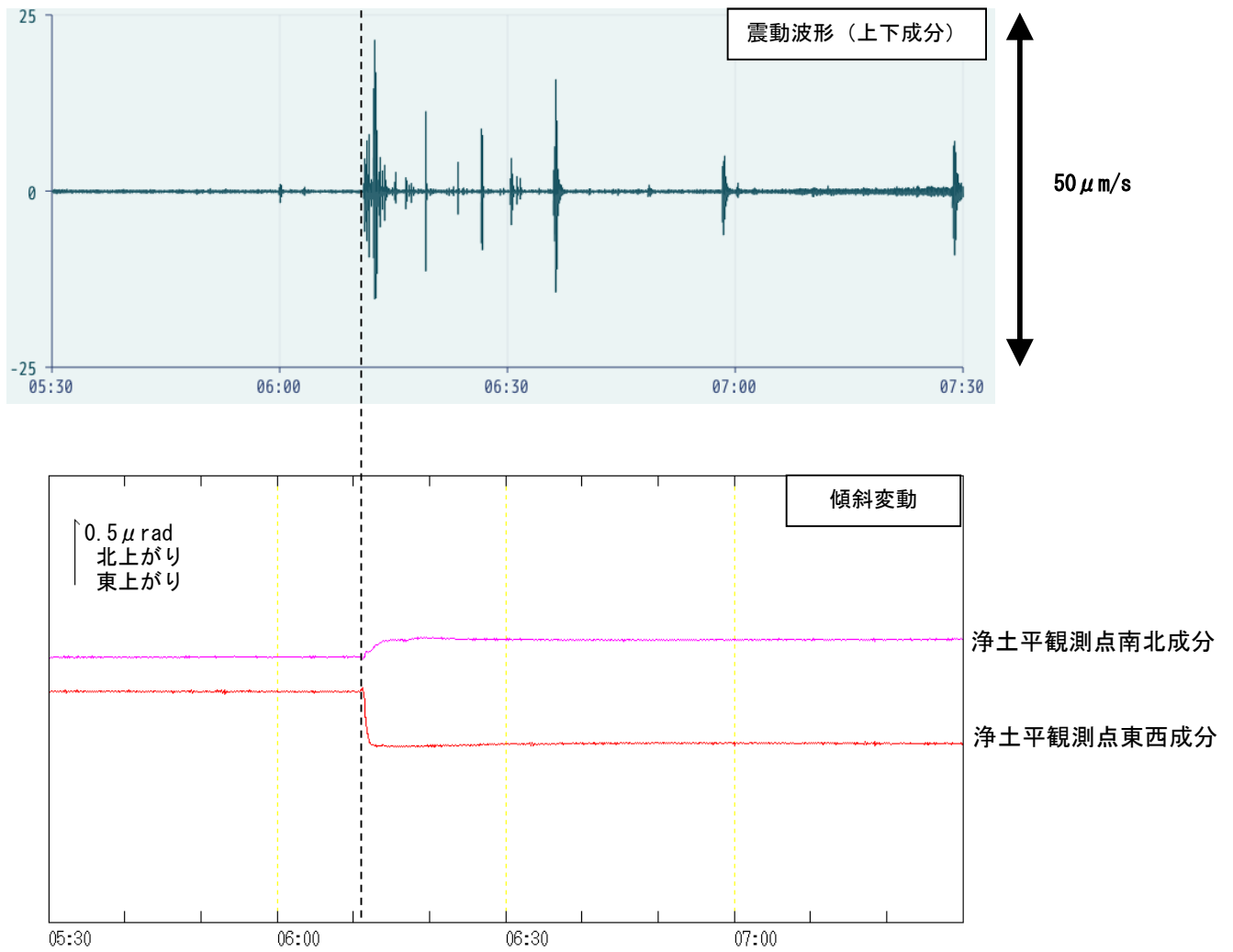


図3 吾妻山 吾妻小富士東観測点での震動波形及び浄土平観測点での傾斜変動
(2022年3月28日05時30分～07時30分)

- ・ 黒破線は、今回の火山性微動が発生した時間を示します。
- ・ 1 μrad (マイクロラジアン) は、1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。
- ・ 火山性微動の発生中には、火山性地震も含まれています。

火山性微動の最大振幅は 4.1 $\mu\text{m/s}$ 、継続時間は 3 分 5 秒です。火山性微動の発生に伴い浄土平傾斜計で西北西（大穴火口方向）上がりの変動がみられましたが、現在はほぼ停滞しています。

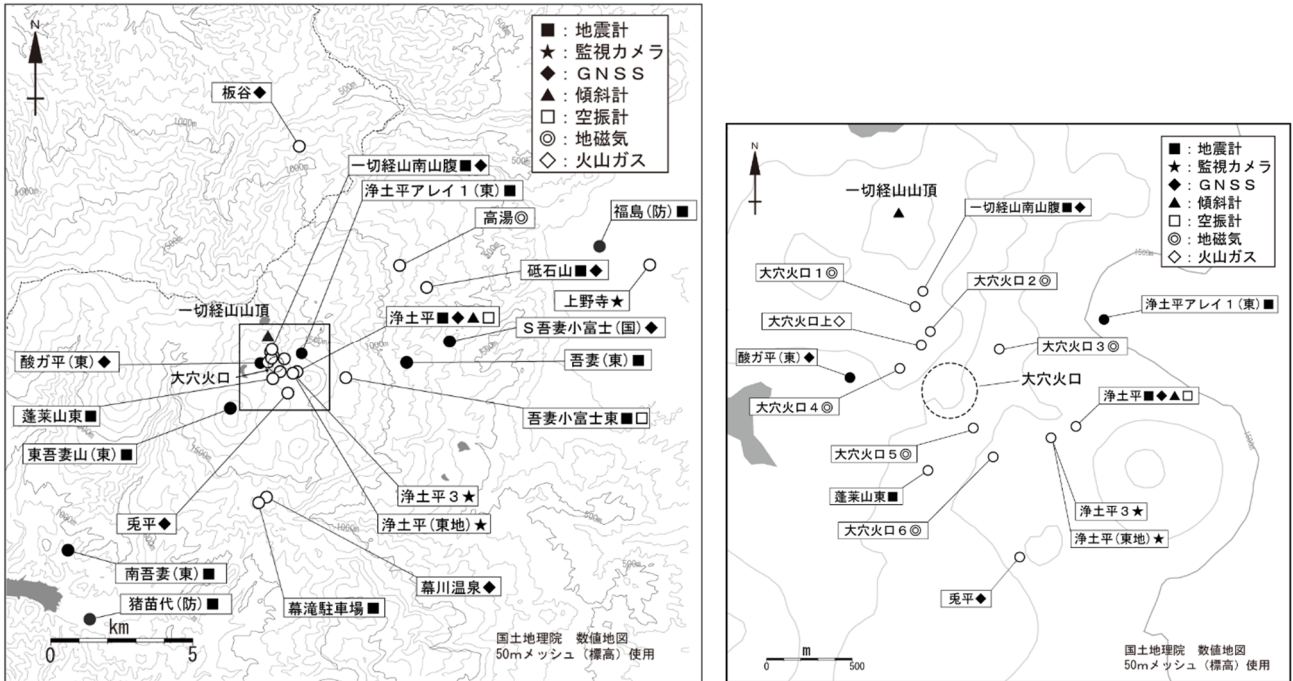


図4 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。

(東地)：東北地方整備局 (国)：国土地理院 (東)：東北大学